

## 記念事業について

**市長** 記念事業にはハード事業とソフト事業があり、ハード事業は備中櫓の復元整備工事を行っています。ソフト事業は4月1日から平成17年5月5日までの400日間を事業期間として、さまざまな記念事業を開催します。

記念事業開幕に先駆けて、3月20日から4月18日まで、津山藩お抱え絵師、歙形蕙齋の特別展を郷土博物館で開催します。昨年、津山の風景を描いた蕙齋の絵が市内で見つかり、それも展示しますのでみなさんぜひご覧ください。

4月1日には、津山さくらまつりのオープンを兼ねた開幕式を鶴山公園で開催します。24日には、文化センターで市民のみなさんや郷土出身者、姉妹都市・歴史友好都市などのみなさんを招いて、市制施行75周年記念を兼ねた記念式典を開催します。式典後には、星野仙一さんの記念講演も予定しています。

5月22日には、記念事業前半のメインイベント「津山歴史時代絵巻」を開催します。森忠政公祝賀行列や大石曳きなど、築城時の石切場が残る

大谷地区や河内玉琳ゆかりの地である川崎の玉琳地区、森忠政公ゆかりの寺社が残る城西地区などみなさんの協力をいただき、地域の歴史に基づいた内容を盛り込んで、市民参加で開催します。

ほかに、市民ミュージカルや講演会の開催、そして市民が企画から実施まですべて行う11の市民自主企画事業も開催されます。

また、9月には「第12回世界大都市十字路会議」を開催し「歴史資産を活かしたまちづくり」をテーマに、これからのまちづくりについてシンポジウムや交流会を行います。そのほかに、さまざまな協賛事業が予定されています。

そして、この場を借りてお礼を申し上げたいのですが、記念事業への協賛金を市民のみなさんや郷土出身のみなさん、お願したところ、多くの人や企業、団体からご協賛をいただき、本当にありがたいと思っています。現在も募集していますが、一定



津山城再現コンピューターグラフィックス

### 山本 博文(やまもと ひろふみ)

昭和32年津山市上之町に生まれる。東京大学文学部国史学科卒業。昭和57年同大学大学院修了。現在、東京大学史料編纂所教授であり文学博士。専門は日本近世史。

平成4年「江戸お留守居役の日記」により第40回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞。

著書に「殉死の構造」「参勤交代」「島津義弘の賭け」「鬼平と出世」「切腹」「武士と世間」「武士道のこと」が面白いほどわかる本」などがある。



映像を収録した「よみがえる津山城」を記念品として贈呈したいと、現在編集作業を行っているところ。4月下旬にはみなさんのお手元にお届けできると思います。この「よみがえる津山城」では、津山市出身の押阪忍さんにナレーションを担当していただいています。

金額以上の協賛をいただいたい人には、往時の壮大な津山城を美しいコンピュータグラフィックスで再現した

**山本** すばらしい行事がたくさんありますね。歙形蕙齋は津山ではあまり有名でないかも知れませんが、歴史学界や東京ではたいへん有名です。江戸東京博物館には、津山の博物館にある江戸一目図屏風のレプリカがありますし、この屏風絵はさまざまな歴史の本や教科書にも使われています。今回新しく発見された絵を含めて、蕙齋のいろんな作品が

展示されることは、とても魅力的だと思います。

それから、十字路会議は「歴史資産を活かしたまちづくり」をテーマに交流を行うということですが、地方都市は産業経済だけでなく、それまでの歴史資産をいかに活かしていくかが重要です。その意味ではいろいろ経験のある都市の話も聞いて、歴史資産の活用方法を考えていただければと思います。

また、講演会には一流の歴史学者を呼ばれているので、市民のみなさんも改めて津山の歴史に関心を持ち、津山のことをよく知ってほしいと思います。

### 庶民にとって築城とは

**山本** 大石曳きで有名なのは秀吉が大坂城を造ったときで、とても大きい石を持ってきました。そのときは何百人もの人が石を曳き、石の上には着飾った武士が乗り、はやし立てて運んでいくというイベントで、みんな楽しんでやっています。もちろん石を運ぶのはたいへんですが、土木工事は当時の民衆に仕事を与え、活性化しているわけです。



江戸時代初期は、大名が百姓や町人から税金を取り、その財力を築城や城下町の建設に使用しました。それにより、お金が庶民にまで回り、

経済が非常にうまく回転していた時代でした。そういう公共事業がなくなってきた、税金も頭打ちになってくると、だんだん江戸時代も財政緊縮の時代になり、閉塞感のある時代になります。当時の経済的感覚では、築城した時代は武士も町人も百姓も活性化した時代だと思えます。

**備中櫓の完成時期**

**市長** 備中櫓は、平成10年度から29年度までの期間を対象にした「史跡津山城跡保存整備計画」に沿って整備されています。昨年、屋根瓦葺きや壁の荒塗りなどが終わり、来年3月の完成をめざして、現在は壁の中塗りや室内の造作工事を行っています。

ところで、この備中櫓という名称については、美作国にあるのになぜ備中櫓なのかと

いう問い合わせが多数あります。櫓の屋根には森家家紋の「鶴丸」と池田家家紋の「揚羽蝶」の瓦が上がつていることが関係しているそうですが、これは専門家の山本さんにお任せします。

**備中櫓の名前の由来**

**山本** 備中という地名の備中

中があります。当時戦国武将や大名も備中守や美作守というものを名前にしています。櫓の名前は、忠政の娘婿の池田備中守長幸に由来しています。長幸は鳥取から備中松山（今の高梁市）にきた大名で、そのころは6万5、000石でした。森家は18万石ですから、森家に比べると少し小さいですね。森家は美作国の国持ち大名で、周辺の大名と婚姻関係を結んで、美作を中心とした地域を安定させようとした。長幸に嫁いだ長女が亡くなった後も四女が嫁ぎますが、これはその家と絶えずつながりを保つために当時の大名がよくやつ



たことです。そして長幸と森家が縁戚関係になって、長幸が津山城を訪れたときに接待する櫓ということで、備中櫓という名前をつけたそうです。そういう意味では歴史的にも意味のある名前です。

**備中櫓を復元する理由**

**市長** 津山城には60を超え櫓がありました。その中でも備中櫓は最大級の規模であること、また本丸南面に突出した石垣上にあつて市街地からも一番見やすいこと、そして御殿の一部として使われていたこともあり、非常に象徴性の高い建物です。また、多くの史料に恵まれていたことも理由の1つです。

津山の新しいシンボルとして多くのみなさんに親しんでいただきたいと思えます。

**津山城の全国的な位置付け**

**市長** 私は、津山城の石垣は日本一だと思っています。壮大さだけでなく、石組みなどいろいろな点で日本一だと思っています。城郭研究家の話では、当時は国内に200ほどの近世城郭がありましたが、その

中でもトップクラスだということです。姫路城、熊本城、津山城を日本の城のベスト3としてあげる専門家もいるくらいです。

**山本** 全国のお城はほとんど見ましたが、大坂城や江戸城は別格として地方の大名クラスが造った城としては、私も津山城は姫路城や熊本城に匹敵するすばらしい城だと思います。

城郭研究のうえでは、お城は山城、平山城、平城に分けることができます。津山城は平山城の形態で、山に石垣を組んで造っていくので、外から見ると本当にそびえ立っているように見えます。平山城は城らしい城ですから、そういう中では5本の指に入ると思えます。

しかしそれほど有名でないのは、建物がないこと、地理的な条件から津山の城を見た人が少なく、あまり取り上げてくれる人がいないからです。専門家はいろんな城を見ますから津山城のすばらしさは分かると思いますが、そういう面で知名度が低いというのは本当に残念です。

でも、郷土の誇りとして自慢できるお城だと思います。